刊行によせて

昨年の「国際学部創立 30 周年」では、多くの記念行事が開催され、『国際学研究』記念号も発刊された。その際、お世話になった方々に深く謝意を表したい。

昨年は単に、わたしたち明治学院大学国際学部にとって節目の年であるだけではなく、大学そのもの、ひいては、わたしたちが生きるこの社会そのものにとって、大きな節目となる年であったように思える。七十年を越えてつづいてきた「戦後」の終わりが目に見える形でやって来ようとしているが、その次に来るものが何なのか、また、この社会や大学は、どこへ行こうとしているのか。そのことについて明確に語れる者はいないだろう。それでも、わたしたちは、日々の研究や教育をやめるわけにはいかない。わたしたちの、そんな、ささやかな実践が、いつか形となって、この社会の「未来」を動かしてゆくことを信じたい。

この年報内の、共同研究、そしてフォーラムで書かれ、語られたテーマは、ヴァラエティーに富んでいるが、よく見れば、そこに伏流しているものが、当学部の大きい特徴である、深い現社会への関心であることは明白であるように思える。みなさんからの忌憚ないご意見を期待している。

2017 年 10 月

国際学部付属研究所
所長　高橋源一郎